

# 海外教育 メディアレポート

フィリピン共和国

メディア・リテラシー

海外教育メディアレポート メディア・リテラシー

高等学校におけるコア教科「メディア・情報リテラシー」  
(フィリピン共和国)

東京学芸大学名誉教授  
篠原文陽児

## はじめに

フィリピン共和国の義務教育は、教育省 (Department of Education) による管理、監督および規制等のもと、初等教育と中等教育の13年間で、6月から翌年3月を学校年度とする2学期制が標準である。このうち初等教育は、幼稚園教育と小学校教育からなり、それぞれ、5歳児対象の1年間と6歳児から11歳児対象の6年間の、計7年間である。一方、中等教育は、4年間の中学校教育と2年間の高等学校教育である。

## メディア・リテラシー教育の取組

(1) 高等学校教科「メディア・情報リテラシー」  
メディア・リテラシーに関する教育は、教育省から公表されている高等学校コア・カリキュラムを構成する計17教科の一つ「メディア・情報リテラシー」(Media and Information Literacy) で実施されている。  
この実施を支える資料に、同じく教育省が公表しているカリキュラム・ガイド (Curriculum Guide) と教師用指導書 (Teaching Guide) がある。

## (2) カリキュラム・ガイド

カリキュラム・ガイドには、教科等の指導目的や内容等の標準が記されている。幼稚園および学校は、当該の地域、対象とする幼児および児童生徒、そして、学校等の実態に応じ、それぞれ独自の教育課程を編成するため、これを活用する。

教科「メディア・情報リテラシー」のカリキュラム・ガイドによれば、本教科の指導目的は、学習者に、学習者個人と社会の両者を成長あるいは発展させる、コミュニケーションのチャネルおよびツールとしてのメディアと情報の基礎的な理解を与えること、そして、学習者が、メディアと情報に責任をもつ利用者かつ有能な生産者となると同時に、創造的かつ批判的に考える市民になることである。また、授業は高等学校1年次の1学期80時間を標準とすることが記されている。

カリキュラム・ガイドは、「メディア・情報リテラシー入門」「メディアと情報に関する法的、倫理的、社会的課題」「メディアと情報をもつ力」など17項目の内容それぞれに対し、内容の標準、成果の標準、学習目標、そして学習目標のコードを記している。

表は、17項目の内容のうち、授業の特色が特に現れていると考えられる項目のうち1、10、16のそれぞれを示している。

## (3) 教師用指導書

教師用指導書は、フィリピン共和国の義務教育の目的を達成するための授業担当者用資料である。国が掲げる教育目的は、初等および中等教育のすべての学習修了者に求められる、その後の学習や仕事に必要な資質、地域的かつ地球規模的な調和を基調とする共生する能力、創造的で批判的な思考法の活用、そして、他者と自己を変えうる潜在力と喜びを基礎として自らを高めることである。そのため、日々の授業の創造と評価の道具立てを提供し、教授および学習の諸活動と直面する課題を容易にし、より深化させた内容領域と能力に向かうように支援し補完するために作成されている。

特に高等学校のカリキュラムの枠組みは、「Saysay-Husay-Sarili」(SHS)、つまり、「意味と意義—学び方と深め方—活用法」を基本概念に、質の高い教育内容と柔軟性を、多様化する教師と環境に統合させている点は特筆に値する。

## まとめにかえて

高等学校教科「メディア・情報リテラシー」は、教育課程の編成方法の一つであるスパイラル方式を集大成した一つのコア教科として実施されている。小学校4年次から高等学校1年次の間に学習する、「技術と暮らし」(Technology and Livelihood Education) により、学年進行でメディアと情報に関する知識、技能、価値観などの学習があるからである。第三番目の基本概念「活用法」と合わせ、我が国が教科「メディア・情報リテラシー」に学ぶことが多いように思われる。

表・カリキュラム・ガイドの内容等記述例

内容	内容の標準	成果の標準	学習目標	コード
1. メディアと情報リテラシー入門 a. メディア・リテラシー b. 情報リテラシー c. 技術リテラシー	学習者は、メディアと情報リテラシーおよびこれらに関連する概念を理解したことを表現する。	学習者は、参加個人がメディアと情報リテラシーの能力を有することが分かるような集団のための創造的で相互対話的なシンポジウムを企画する。	学習者は、 1. メディアと情報によって、コミュニケーションがどのように影響を受けたかを記述する。 2. メディア・リテラシーと情報リテラシーおよび技術リテラシーの類似点と相違点を指摘する。 3. メディアと情報リテラシーが個人に備わっているかの評価を論評する。 4. メディアと情報の能力がある人の特性を、事例を示して、明確に表現する。 5. メディアの接し方、生活スタイル、好みを共有する。	MIL11/12MIL-IIIa-1 MIL11/12MIL-IIIa-2 MIL11/12MIL-IIIa-3 MIL11/12MIL-IIIa-4
10. メディアと情報リテラシーを有する個人 a. 生活の質改善 b. 政治へのいっそうの参加 c. 経済的機会改善 d. 学習環境の改善 e. 社会的団体との緊密度向上 f. その他			学習者は、個人 (私的、専門的、教育的、その他) と社会 (経済的、社会的、政治的、教育的、その他) に対するメディアと情報の総合的な関わり合いを取りまとめる。	MIL11/12MIL-IIIj-29
16. 情報とメディアの巧妙な操作 a. 定義、特徴、様式と形式、情報源、利点と限界、価値 b. 判断基準の選択 c. デザインの原理と要素			1. 巧妙に操作された情報とメディアの観点を記述する。 2. 巧妙に操作された情報とメディアが、どんな方法で作成され、編集および流通されたかを、理解する。 3. 巧妙に操作された情報とメディアの信頼性と妥当性およびその出どころを、選択基準を使って、評価する。 4. 創造的で巧妙な操作法に基づく表現を、デザインの原理と要素の観点で作成し評価する。	MIL11/12MPIM-lvgh-19 MIL11/12MPIM-lvgh-20 MIL11/12MPIM-lvgh-21 MIL11/12MPIM-lvgh-22